

令和7年度第1回さぬき市総合計画審議会 会議結果

- 1 会議日時 令和7年9月5日（金） 13：30 ～ 15：00
- 2 会議場所 さぬき市役所3階302会議室
- 3 出席者 [委員] 井上委員、遠藤委員、大森委員、折原委員、川田委員、
杉山委員、長山委員、三井委員、芳竹委員、米田委員
[事務局] 向井審議監、総務部 多田（千）部長、
政策課 多田（和）課長、蓮井課長補佐、橋本係長
[委託事業者]（株）ぎょうせい
[傍聴人] 0人
- 4 議題 （1）第3次さぬき市総合計画の策定方針について
（2）市民意識調査について
- 5 資料 第2次さぬき市総合計画後期基本計画
第2次さぬき市総合計画後期基本計画 概要版
第3次さぬき市総合計画の策定方針について
資料3 さぬき市 まちづくりのための市民アンケート調査
資料4 さぬき市 まちづくりに関する中学生アンケート
資料5－1 市民アンケート調査票 新旧対照表
資料5－2 中学生アンケート調査票 新旧対照表
次第、委員名簿、さぬき市総合計画審議会条例

6 会議要旨

発言者	意見概要等
事務局	開会（13：30）
市長	<委嘱状交付>
事務局	審議会の会長、副会長の選任を行いたいと思います。 特にご意見がないようなら、事務局は会長に長山委員、副会長に三井委員にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。 ご意見がないので、お願いしたいと思います。
市長、会長	<大山市長から長山会長へ諮問書交付>
市長	挨拶
事務局	会議の原則公開について、ご了承願いたいと思いますがいかがでしょうか。 傍聴者がいらっしゃったら、随時ご入場いただきます。

	自己紹介をお願いします。
各委員、事務局	自己紹介
会長	議事（１）第３次さぬき市総合計画の策定方針について、事務局から説明願いたい。
事務局	＜配付資料確認＞ ＜第３次さぬき市総合計画の策定方針について説明＞
会長	質問や意見等あれば、伺いたい。 前提として、市民の意識調査を行っている。議事（２）市民の意識調査について、事務局から説明願いたい。
事務局	＜資料３、４説明＞
会長	意見や質問等があれば、伺いたい。
副会長	有効回収率は、2015年42.9パーセント、前々回45.8パーセント、前回51.5パーセントと徐々に上がっている。市民の中に責任感、使命感等の感情が高まってきていると思う。それを踏まえて、今年行われる国勢調査は9月末までに配布、回収が10月8日までとなっており、この調査の10月上旬と時期が被っていることが気になる。時期を少し勘案してはどうかと思った。検討してもらいたい。
委員	資料３の問７について、さぬき市の人と結婚した人はどの選択肢になるか。
事務局	「２ 他の市町村から引っ越してきた」になるかと思います。
委員	調査票は世帯主に送るのか、それとも、さぬき市民の中から抽出して送るのか。
事務局	基本的に世帯主ではなく、旧５町の29歳以下、30代、40代、50代、60代、70代以降の各世代、男女同数ずつ配布する予定にしています。
委員	詳しく、例えば「結婚を機に」というのがあってもよい。結婚を機に住み始めた人、仕事の絡みで来た人と、単なる引っ越しで来た人は違うと思う。 先ほど有効回収率の話があり、低いと思って聞いていたが、こんなものなのか。
(株) ぎょうせい	回収率が50パーセントを超えるのは、かなり良い方だと思います。

担当者	テーマによって違いますが、郵送調査の場合は限界があります。今回の調査のように、全年代を対象とした場合、45 から 50 パーセントの間に落ち着くことが多いです。男女共同参画等、一般的な認識がそれほど高くないテーマの場合は、30～35 パーセントくらいと低いです。逆に、介護保険など高齢者を対象とした調査では、70 パーセントを超える場合が多いです。
委員	ご協力のお願いの文言に「第2次さぬき市総合計画に基づいて」とあるが、堅すぎて面倒くさいとなるので「あなたが住んでいるさぬき市の将来」のような少し柔らかい感じでお願いすると、回答しやすくなるのではないかと。中を見ないでポイとするかもしれない。
(株) ぎょうせい 担当者	確かに「皆様の生活を変えるためのものです」のような、もう少しだけ表現の方がよいかもしれません。検討したいと思います。
委員	アンケート用紙を開けてもらいやすく、書きやすいようにすると、回収率の数字がよくなるかもしれない。 資料4 問 14 について、できれば設問の文頭に「あなた方には、ぜひさぬき市にいてほしい」というような文言を入れ、皆さんに期待しているということを前段に置いて「さぬき市を出ることになっても、また戻ってきたいよね」という期待感を持たせるようにしてはどうか。誘導になるが、さぬき市はいいところで自分たちに期待してくれているから帰ってくるべきだと意識付けるような文言を少し入れてもらえるとよい。そういうことで成功し、Uターン率の高い行政が四国にもあるはずだ。「このまちはいい」ということを生徒たちに刷り込んでいると、大学で市外に出てもUターンしてくるので、文言を入れたらどうかと思った。
委員	「戻りたくない」という回答が出たら、理由が気になると思うが、そこは聞かなくてよいのかなと思った。理由を書く欄があってもよいと思った。 資料4について、そもそもなぜ高校生でなく中学生にアンケートするのか。中学生だと、まだ進学や就職までイメージできていない生徒がたくさんいる。もっと将来をイメージできているのは高校生だと思う。
会長	高校生に聞かない理由について、まず、中学生の場合は市内の中学校に一括で調査できるということか。高校生は分散しているので、調査方法が難しいということか。高校3年生に聞くのが一番有効な調査であるが、その場合だと、自宅郵送になり、高校には送れない。
事務局	前回の後期計画の際のアンケート調査では、中学生の回収率が 93.1 パーセントでした。

会長	中学校に頼んでも、93 パーセントしかなかったのか。
事務局	様々な理由で回答できないという生徒もいらっしゃいます。
会長	中学生は、中学校に依頼する。市民の場合は、個人に発送する。
委員	それだと高校生が抜ける。市民アンケートは 18 歳以上が対象なので、高校生の世代は入っていない。
会長	市民アンケートは、高校生が対象ではないのか。
事務局	市内には県立高校が 3 校、私立高校が 1 校あります。今回のまちづくりに関するアンケートは、さぬき市に住んでいる子を取り入れたいという思いがあります。そのため、市外からもたくさん通っている高校の生徒よりも中学生にアンケートを行い、さぬき市で生まれ育った人の声を聞きたいと思っています。
委員	それは理解できるが、市民アンケートでも高校生が外れている。高校生の意見は全く取らなくてよいのか。
委員	今人口が減り、子どもの数も減っている。市内に住んでいる人にヒアリングして改善したいということはあると思うが、そもそも母数が減っている。高校生にも調査して、市外に住んでいる生徒から見た客観的なさぬき市の改善点も吸い上げた方がよいのではないか。ほかからの視点を生かすことによって、改善点を見つけることができるのではないかと感じた。 中学 2 年生の娘にどこに行きたいか、何をしたいか聞いても「分からない、知らない」という感じだ。ほかの視点を入れる意味では、高校生アンケートがあつてよいと思った。
会長	自宅郵送ではなく、市内の高校を調査したら市外の人もあるが、属性の選択肢に「市外」を入れれば、市内に住む人のサンプルも取れる。高校に入らず働いている子どももいるかもしれないので、18 歳全員に郵送するというものもある。ただ、これでは回収率が下がるので、高校に依頼すると回収率が上がる。
委員	高校生も自宅郵送にすると、市外から通う生徒が分からないので、宿題かホームルームでやってはどうか。中学生の回収率が高いのは、たぶんホームルームや朝の集いの時間などで行っているのだと思う。学校側に協力してもらってはどうか。
会長	学校に依頼すれば、中学校も高校も回収率は変わらない。

副会長	ほかの自治体の事例を教えてください。
(株) ぎょうせい 担当者	最も多いのは、18 歳以上の成人を対象とした市民アンケートです。成人に聞いて、まちの方向性を決めて行きましょうというのが基本的な考え方で、それを採用している自治体様が多いです。 さぬき市は、毎回中学生を対象としたアンケートを実施されています。そのため、調査票の中身も前回は踏まえており、多少入れ替えや文言の修正を行うものの前回と比較することができます。「住みたい」と答えた中学生が増えたのか減ったのか、その要因は何かなど、細かく分析できると考えています。
副会長	ということは、中学生、高校生のアンケートは余りないということか。
(株) ぎょうせい 担当者	余りないと思います。 さぬき市は次代を担う中学生の意見を聞き、施策に反映できるということでは、情報量が多いのではないかと考えています。
会長	時系列の問題がある。中学生の調査を行うと、前回と比較して良くなった、悪くなった、ということが分かる。実施するのなら、中学生から高校生に変えるのではなく、中学生は実施し、なおかつ高校生もやるかどうかになる。前回も行っているのなら、中学生のデータを取らないのはもったいない。高校生は自宅郵送にする、3 年生は成人と被る場合もあるので、2 年生を対象にするといった方法もある。市内の高校に依頼して、市外の生徒にも答えてもらう方法もある。高校生は新規となるが、やるかどうかだ。ただ、公立高校の協力を得ることはできそうだが、私立は協力してくれるかどうか分からない。前回と比較できるなら、中学生はやった方がよいと思う。高校 3 年生は進路も決まっているだろうから、来年市外に出るのか、市内にいるのか聞いてみたいがどうか。
(株) ぎょうせい 担当者	あくまでも個人的な意見になりますが、18 歳以上を対象としているこの市民アンケートを、例えば 16 歳以上にする方法だと、高校生が含まれると思います。高校生だと、市民アンケートの内容を理解できると思います。一方、中学生では難しいと思われるので、あえて中学生用の文章や選択肢にしています。
会長	まれだとは思いますが、16 歳以上で働いている場合もある。前回との比較ができない部分もある。階層を増やすのは、一番簡便な方法だと思うがどうか。
事務局	今は 18 歳から 29 歳までの階層で抽出しようとしているのですが、

	16 歳からということですか。
会長	16 歳から 18 歳で一区切りにしてもよいのではないか。16 歳から 29 歳を一つの塊にして分析するのか。
(株) ぎょうせい 担当者	分析する場合は、資料 3 問 3 にある年齢区分を使い、若い人の意識はどうか、高齢者の意識はどうかなどを分析します。
会長	こちらを見ると、分析は 19 歳以下と 20 歳から 29 歳に分けて行われるようだ。16 歳なら大人扱いにしても答えられるのではないかと思う。 それでどうか。高校生の意見もぜひ聞いてみたい。もし「出ていきたい」が多いと悲しいが、いい考えかもしれない。
(株) ぎょうせい 担当者	中学生は何度も調査しているので、時系列で変化を見ることが大事です。そして、アンケート調査は調査だけでなく、啓発の意味もあります。今中学生の 10 年後は、まさに市内に留まるか、それとも出ていくかの時期になるので、さぬき市のことを今ちゃんと知ってもらうことが啓発にもなります。 16 歳以上としてサンプルを増やすのは、一つの方法だと思います。もう一つは、策定スケジュールの中にお示ししていますが、来年の 5 月か 6 月にかけてワークショップを予定しています。 前回計画時もワークショップを行いました。ワークショップは中学生をメインに高校生を入れて、幅広い意見を聞いてみたいと思います。ワークショップは定量データではないので、個人の思いや辛いこと、悩みを聞くことができます。アンケートとワークショップを絡めていくと、とても有意義なものになります。もし可能であれば、高校生をワークショップに加えていく手法もよいかと思います。ただ、来年の話なのでどう変化するかは今のところ分からない状況です。
会長	ワークショップに高校生を加えたら、発達段階や行動範囲が違うので中学生と違うことを言うかもしれない。含めて実施するとよいかもしれない。 アンケートの調査時期については、先ほど国勢調査と時期がぶつかるといった話があった。時期についてはどうか。スマートフォンでやるが、国勢調査は結構面倒くさい。
副会長	国勢調査は煩雑なところがある。自分がある程度年齢を重ねていたらと考えたとき、一緒に送られてきたらうっとしいかなと思うがどうか。
(株) ぎょうせい	国勢調査と時期が被ると思います。国勢調査は、調査員が各戸を

担当者	訪問してお願いしたりすると思いますが、基本的にはマークシートだと思います。それとは別の形でアンケートが届きます。これまで、国勢調査の時期と被っていたので回収率が落ちたという話は、余り聞いたことがありません。検証していないので、大丈夫であると明言はできかねますが、大きな問題はないのかと思っています。
副会長	高齢で、一人でいる人がかなりいるので、二つまとめてどっと来たときに分かるかどうか気になった。判断は任せる。
会長	先ほど、将来戻りたくない理由を書く欄があってもよいという意見があったが、どうか。設問を読むと「将来、進学や就職でさぬき市を出ることになった場合」とある。
委員	ほかの問いをしっかりと確認できていなかった。もう大丈夫だ。
会長	ほかにあれば伺いたい。
委員	前回の市民アンケートの回収率は 51.5 パーセントということだったが、年代別ではどうか。
(株)ぎょうせい 担当者	前回は、19 歳以下が 2.5 パーセント、20 代が 11.2 パーセント、30 代が 16.2 パーセント、40 代が 20.3 パーセント、50 代が 22 パーセント、60 代が 11.8 パーセント、70 代以上が 15 から 16 パーセントくらいになります。40 代くらいまでと 50 代以上で半々くらいに分かれています。 割り付けをせず、完全な無作為抽出で配布をすると、60 代以上が 6、7 割を占めてしまいます。それを抑制するために、年代ごとにサンプル数を決めて無作為抽出をして配布する手法をご提案しています。
委員	若い人の場合、手紙が来ても「知らない」とならないか気になった。均等の割合で、結果に若い人の意見が反映されているのならよい。
(株)ぎょうせい 担当者	そこは大丈夫かと思っています。年齢別のクロス集計も行っていく予定です。
会長	サンプリングするときの抽出率について、例えば回収率が少なそうなところは多めに出すなどはしないのか。
(株)ぎょうせい 担当者	そういうバイアスではなく、均等です。
会長	均等にサンプリングし、回収率は年代ごとに差があっても、若い人

	と上の世代ということでやれば、大体均等になるということか。
(株)ぎょうせい 担当者	そうです。
委員	高校生も加えるとしたら 2,500 を均等に分けるのか、それとも配布数を増やすのか。
会長	サンプル数を少し増やした方がよいとは思いますが、予算の問題もある。あとで相談、検討してもらいたい。 ほかにあれば、伺いたい。
委員	資料 4 問 7 に「さぬき市総合計画を知っていますか」という設問があるが、そもそも中学生が触れる機会はあるのか。触れたことがないなら、質問してもどうなのかと思った。 同問 25 の設問についても、さぬき市のまちづくりというものを中学生がどう捉えているのかに対する回答を求めているのか、それともさぬき市が進めるまちづくりというものを知った上で回答を求めているのかで分かれると思うが、どうか。
会長	これらの設問は前回からあるのか。
(株)ぎょうせい 担当者	前回も全く同じ質問をしています。前は、計画の「内容までよく知っている」中学生は 1.2 パーセントしかいませんでした。「名前を見聞きしたことがある程度」は 14.3 パーセントだったので、10 人中 1 人か 2 人くらいしか知らないことになります。さぬき市としては、総合計画を若い人にも知ってほしいという意味合いも兼ねているので、この数字が今回上がるかどうかを事務局としても気にされているところです。 中学生が目にするとしたら、概要版かホームページになるかと思いますが、難しいかもしれません。若い人にも総合計画を知ってもらうために、今後 SNS を使った方がよいのか、学校を通じて何らかのアクションを起こした方がよいのかなども今後検討していかなければならないので、そのための基礎資料ということになるかと思います。
会長	ほぼ啓発になる。知らない前提で聞くが、そこで目にするので、中学生全員に計画があることを知らせる効果がある。実際問題として、知らなくても当たり前だと思う。中学生は全数調査か。
(株)ぎょうせい 担当者	2 年生全数です。

会長	2年生だけだが、啓発なら全員に配布した方がよいと思う。どうせ知らないと思うが「こんなものがあるんだ」ということになる。これまでも恐らく知っていると思って質問していないと思う。アンケートには啓発の役割もあるということなので、典型的な質問だ。
委員	来年5、6月にワークショップ等があるが、市のホームページを見ると、令和4年に「市民・中学生合同まちづくりワークショップを開催しました」とある。このときの中学生は何年生だったのか。
(株) ぎょうせい 担当者	中学校にお願いして、基本的に2年生を中心に一部3年生もいました。3年生は受験もあるので、2年生が中心です。 すばらしい意見が出て、すごいなと思いました。さぬき市の前回のワークショップの例を他都市でもご紹介するほどでした。よい意見がたくさん出たので、今回高校生を加えると、また違う視点が出てくると思います。
委員	アンケート調査も2年生が対象だが、ワークショップは新しい年度になってからなので、現在1年生が2年生となって参加することになる。そこで、1年生の生徒を呼んでワークショップを行い、翌年、2年生を対象としたアンケート調査をした方がよいと思ったがどうか。中学生アンケートのまちづくりのキーワードも、回答に変化があるのではないかと思う。
(株) ぎょうせい 担当者	学年を余り気にされなくてもよいと思います。ただ、3年生だと受験の問題があり、1年生だと小学校から上がったばかりなので難しいところがあるように思います。 ワークショップを先にやってからアンケートを行う考え方もあるかと思いますが、まず定量的に、数字で中学生の意識をきちんと捉え、課題や問題点、意識を把握しておいた上でワークショップを行い、ではもう少し深掘りをしてみようかという段取りの方がよいのではないかということでご提案しています。
会長	ワークショップの後、参加者から感想を集めるのか。
(株) ぎょうせい 担当者	基本的には、発表会のようなものを行います。すごい回答が出ると期待しています。
委員	中学生のアンケート結果は、反映されているのか。
(株) ぎょうせい 担当者	アンケートとワークショップの結果は、市のホームページで公開しています。 計画に反映しているかについては、結果を各課で情報共有するので、各施策に入れたり、ご提案したりしています。

委員	2,500 人にアンケートを送るということだが、18 歳以上の人口はどのくらいか。そしてアンケートを送るのは、どのくらいの割合になるのか。
会長	概数でもよいので分かるか。 人口が大体 3 万 7000 か 8000 人くらいだと思うので、割合は 1 割くらいか。年齢階層ごとの無作為抽出で実施するので、統計的には有意だと思う。また、回収率が 50 パーセントあれば、どの調査でも有効だと思う。
委員	3 パーセントくらいで十分だと聞いたことはある。
(株) ぎょうせい 担当者	統計調査の場合、回収率ではなく、回収数を確認しないといけません。回収率はテーマによって限界があるので、統計的には 500 から 1,000 サンプルの間で確保できれば、統計的には意味のある分析ができるとなっています。対象の数は関係ありません。
委員	対象の 3 パーセントくらいと聞いたことがある。
会長	テレビの視聴率調査のようなものだ。サンプル数はパーセント的には異様に少ないが、統計的には有意なはずだといわれている。視聴率調査は、人口 1 億人に対して数千サンプルで正しいのか、という意見があるが、統計的には有意とされている。
(株) ぎょうせい 担当者	結局はサンプル数になります。
会長	大体 50 パーセントの回収率なので、今回想定しているのは 1,250 となる。まず大丈夫だろう。 見栄えの問題がある。回収率があまりにも低いと、大丈夫だといっても偏っているのではないかと疑う住民がいるかもしれない。会社や大学といった組織で行う調査では回収率を気にする。皆が納得してくれるかどうか、回収率で影響される。統計的な有意差は、皆の納得度合いとは違う。
副会長	今回のアンケートは、全体の傾向を知るためのもので、統計的に有意かどうかを探っているわけではないと思う。個人的には以前統計で苦労したことがある。しかし、このアンケートは学問の比較ではないので、今の話はどうかと思っていた。適切なサンプリングがなされているなら、まあまあかなと思うがどうか。
(株) ぎょうせい	その通りだと思います。大事だと思います。

担当者	
会長	投票率もそうだが、回収率が 50 パーセントあれば、50 という数字に意味はなくとも「半分いったのか、まあいいのではないか」という感じになる。住民に対して心理的な説得力があるので、調査方法は専門家を信頼して、お任せする。 確かに回収率にそこまで神経質になることもないのかもしれない。ほかにあれば伺いたい。
(株) ぎょうせい 担当者	先ほど 16 歳から 19 歳までという話がありました。昨年度、さぬき市の「こども計画」を策定される際、16 歳から 29 歳の若者を対象にアンケートを実施し、どういうまちづくりを望むかという質問も含まれていました。そういったデータも活用できるのではないかと考えています。ただ、若い人に限定したので、回収率が 3 割を切り、28.9 パーセントとなっています。若い人なので仕方ないのですが、今回はできるだけ若い人や子育て世代の声をできるだけ反映させようと、抽出方法をご提案しています。
会長	ほかの審議会でも若年層の調査を実施しているということなので、過去の傾向もチェックしてもらえるとよい。大きな変化があれば、気付くことがあるかもしれない。この調査に関しては、16 歳から対象にするのは初めてだ。 データを見たいし、議論するための材料が必要なので、まずアンケート調査を行い、集計、簡易な分析をしてもらい、次回の 2 月までに簡易なものでよいので報告をお願いしたい。それを参考に議論する。今回から市民アンケートの対象が変わり、16 歳以上に配布してもらう。中学生も継続して実施し、前回と比較する。サンプル数については、予算の関係もあるので相談してもらいたい。 これで今日の議事は終了した。 その他として、次回の審議会の公開、非公開について決定する。原則として審議会は公開することになっているが、了承してもらえるか。 了承してもらえたので、次回以降も原則公開とする。 そのほか、事務連絡等があるか。
事務局	今後の会議開催予定について 11 月頃に関係団体調査を実施したい。
会長	次回の開催が近づいたら、事務局から案内があるので、できるだけ出席を願いたい。 閉会（15：00）